

棚田での農作業は
平地に比べっと
大変だよ。
人もだいたい減って
いづまで
続けられつかも
分かんねえし。
そんでもさ、
この風景と仲間のごとが
好きだから
みんなでワイワイ
楽しみながら
やってんだ——。



特集

この地に 生きる

皆さんは、農林水産大臣が認定する「つなぐ棚田遺産」をご存じでしょうか。津山町沢田地区では、一度は雑木が繁茂し、荒地となっていた棚田を地域を上げて復活。その取り組みが認められて認定されました。里山の風景を残していこうと、地域住民が手を取り合って取り組んでいます。

つなぐ棚田遺産～ふるさとの誇りを未来へ～

認定式



令和4年2月に「つなぐ棚田遺産」に認定され、3月に認定証を受け取った沢田管理組合の阿部彰会長(左)と阿部隆一副会長

これまで、棚田を通じて、大学生のフィールドワークの受け入れや、体験農園などを実施。援農ボランティアなども協力して地域外の人と交流するなど、さまざまな方法を模索しながら、日々の活動に励んできました。

進学や就職などで登米市を離れたとしても、生まれ育った古里の景色というのは、どこに移り住んでも忘れることのない、かけがえないものです。

地域から人が減っていく中で、農業の担い手不足がさらに深刻化していくことが心配されています。そんな状況の中、農地を活用し、古里の景色を守っていくために必要なことを考えます。

古里の風景を守ろうと、地域ぐるみで活動しているのが、津山町沢田地区の有志で結成した沢田管理組合の皆さんです。将来に向けた農業生産活動の継続を支援する中山間地域等直接支払交付金を活用し、平成12年からトウモロコシなどを栽培。地域住民が一体となって、棚田を含む里山の美しい風景を守っています。

その取り組みが評価され、未来に残したい優れた棚田を農林水産大臣が認定する「つなぐ棚田遺産」ふるさとの誇りを未来へ」に選ばれました。

地域で守る沢田の棚田

近年、農業従事者の高齢化や後継者不足により、全国的に遊休農地が増加しています。農林水産省の調査によると、令和5年度末時点での遊休農地は約10・2万ヘクタール。特に中山間地域ではその割合が高くなっています。管理をしなくなり農地が荒れると、景観の悪化だけでなく、害虫や有害鳥獣被害が増加する原因にもつながります。

懸念される遊休農地の増加